

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

新年のご挨拶

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会
会長 原田実生

新年明けましておめでとうございます。輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、会員の皆様方には、常日頃、当協会の事業運営に格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年我が国経済は、消費税率の引き上げ延期はなされましたが、原油価格の低迷、新興国経済の減速、4月の熊本地震、6月の英国のEU離脱への動き等の内外の様々な懸念材料が生じる状況の中で、景気は全体的には緩やかな回復基調が続いているとされており、住宅投資も持ち直しを続けているとされています。昨年の住宅着工の動向については、相続税の見直し、マイナス金利政策の影響等から貸家を主体に堅調に推移して、季節調整済年率換算値では100万戸弱程度で推移しています。先行きについても、当面、横ばいで推移していくと見込まれていますが、米国を含めた海外経済の動向に関する不確実性が増しており、景気の先行きは不透明と言えます。



このような中で、昨年のプレカット加工業の業況をみますと、地域差はあるものの全体的には堅調な住宅着工を背景に年後半は繁忙感に追われた年だったと言えるのではないのでしょうか。一方、木材利用に関しては、国産材資源の充実を背景に、公共建築物への木材利用の推進など各般の積極的な政策を受け、各地で中大規模木造建築物の大型商業施設や公共施設等の建設が促進されるなど、これらの動きがプレカット加工業においても新たな需要分野として期待されています。

当協会ではプレカット加工業に対する技術支援の取り組みとして、「プレカットCAD技術者基準」に基づきプレカットCAD技術者研修を実施しており、その修了者を対象として、「プレカットCAD技術者認定登録」を実施しています。このことにより、認定技術者の存在が各プレカット工場の優れた加工技術レベルの新たな証として活用されることが望まれています。また、非住宅分野への対応として、一般流通材を利用した施設系中規模木造建築物非住宅木造建築物のプレカット加工図作成に当たって必要となる木質材料、木質構造、関連法規等について四号建築物との違いを主体に研修を行い、新たな需要に対する対応能力の向上に努めて行くこととしています。

一方、業務支援としては、合法木材供給事業者認定等による違法伐採対策の推進を図るとともに、全国住宅プレカット部材共済会が実施するプレカット部材瑕疵保証事業の保証物件について、従来の一般住宅に加えて、床面積1,000㎡までの店舗、集会所等の非住宅物件も加え、会員の皆様のご要望に応えるべくその充実強化を図っています。

これらを通じて、安全・安心な住環境の創造で顧客満足の得られるような木造建築物の提供にお手伝いできることを願っています。

本年が住宅産業・木材産業にとって飛躍の年になりますよう、そして皆様方にとって素晴らしい一年となりますように祈念申し上げますとともに、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶いたします。

第51回全国木材産業振興大会富山大会開催される

— ウッドファースト社会の実現に向けた宣言決議を採択 —

第51回全国木材産業振興大会は、平成28年11月10日に「木材の復権～ウッドファースト社会の実現に向けて～」をメインテーマとして、富山県富山市の「富山県民会館」において、来賓として今井林野庁長官、真鍋国土交通省住宅局住宅生産課長、石井富山県知事、森富山市長など多数のご来賓の出席をいただき、全国から700名の参加のもとに開催されました。

大会の第一部では、次のとおり大会宣言が満場一致で決議されました。また、一昨年の東京大会で採択した(一社)全国木材組合連合会と全国森林組合連合とのウッドファースト社会実現への共同宣言以降、昨年は(一社)日本林業協会、(一社)日本林業経営者協会が加わった4団体による「日本の森林・山村の再生に向けた共同行動宣言」が調印され、今年はさらに、全国素材生産業協同組合連合会も加わって、11月8日に5団体による木材利用の拡大、国産材安定供給体制の確立、「伐って、使って、植えて、育てる」という持続可能な森林経営の基盤確立に向けた行動宣言が行われ、今大会で報告がなされ、満場の賛同を得られました。

また、第二部においては、松竹株式会社映画監督の本木克英氏(富山市出身)を講師として「映画を通して富山を観る」と題した記念講演が行われました。

第三部の表彰式では、退任団体長、木材産業功労者、協同組合事業功労者のそれぞれの表彰が行われました。

— 宣 言 決 議 —

1. 木材利用の大幅な拡大を実現するため、森林・林業・木材産業関係者が一体となって法律、制度の見直しを含めた木材利用拡大運動を進める
1. 新たな木材利用拡大への支援対策・予算の実現と拡充に取り組む
1. 中高層建築物、商業施設等あらゆる分野に木材利用を創出するための技術開発・普及等の取組を進める
1. 東京オリンピック・パラリンピック関連施設への木材利用を拡大する
1. 生産・加工・流通体制の構築、税制度の確立、木材貿易の適正推進、A材の利用拡大、木質バイオマスの利用等に取り組む
1. 合法木材・木材製品、JAS製品、乾燥材など、安全安心で品質・性能の確かな木材の供給や人材の育成確保に取り組む



プレカットCAD技術者認定登録状況

(平成28年12月1日現在)

研修受講 年度	認定級別	東京会場		名古屋会場		大阪会場		合計	
		認定者 (人)	うち会員工場 に所属する者	認定者 (人)	うち会員工場 に所属する者	認定者 (人)	うち会員工場 に所属する者	認定者 (人)	うち会員工場 に所属する者
24年度	2級	34	22	21	8	25	10	80	40
25年度	1級	17	10	—	—	—	—	17	10
	2級	21	11	21	8	17	2	59	21
	3級	4	1	1	1	1	0	6	2
26年度	1級	2	0	—	—	—	—	2	0
	2級	44	28	37	18	—	—	81	46
	3級	4	3	2	0	—	—	6	3
27年度	1級	3	2	—	—	—	—	3	2
	2級	29	12	23	11	—	—	52	23
	3級	4	2	4	2	—	—	8	4
合計	1級	22	12	—	—	—	—	22	12
	2級	128	73	102	45	42	12	272	130
	3級	12	6	7	3	1	0	20	9

協会会員工場基礎調査結果について(第4回)

— 年間総生産量・AQ製品生産量調べ —

調査対象年月：平成27年12月
調査対象工場数：38工場

	10,000坪未満	10,000坪以上 20,000坪未満	20,000坪以上 30,000坪未満	30,000坪以上 50,000坪未満	50,000坪以上	合計
総生産量 (単位：100坪)	62	172、135、 110、187、 150、114、 150、139	220、283	381、358、 380、414、 383、500、 400、440、 309、423、 470、390、 410、400	2,008、773、 750、1,200、 1,147、1,540、 850、800、 1,504、860、 1,440、1,300、 1,550	23,102
平均	62.0	144.6	251.5	404.1	1,209.4	607.9
(前年平均)	(58.8)	(149.3)	(247.0)	(387.2)	(1,240.6)	(588.3)
AQ製品生産量 (単位：100坪)	0	0、1、104、 0、0、0、 80、0	0、98	0、0、0、 351、269、 0、460、0、 0、0、0、0、 0、0	674、0、0、0、 0、0、100、38、 0、0、0、0、 293	2,468
平均	0	23.1	49.0	77.1	85.0	64.9
(前年平均)	(0)	(27.3)	(55.0)	(80.8)	(75.9)	(59.9)
AQ製品生産比率	0%	16.0%	19.5%	19.1%	7.0%	10.7%
(前年AQ製品 生産比率)	(1.7%)	(18.3%)	(22.3%)	(20.7%)	(6.1%)	(10.2%)

◇簡単なコメント

- (1) 会員38工場を対象とした調査によると、平成27年の1工場当たり年間平均生産量は、60,790坪で、1棟当たり40坪換算で、約1,520棟に相当し、前年の平均生産量に比べると、3.3%の増加になっている。これは、プレカット工場の加工設備の増設や更新が引き続き進んでいることと各工場の活発な受注活動の影響が現れているものとみられる。階層別に見ると、20,000坪以上30,000坪未満及び30,000坪以上50,000坪未満層の中堅クラスで平均生産量が増加している。

前回調査までは、各工場の生産能力の増大により生産量の階層別に見た工場数は上位の階層にシフトする傾向が見られたが、今回の調査ではその動きは顕在化していないと判断される。

- (2) 総生産量に占めるAQ製品の生産比率は10.7%で前年に比べて0.5ポイント上昇した。階層別にAQ製品の生産比率を見ると、中堅クラスのプレカット工場において、従来のように、消費者ニーズに直接応えたAQ製品の生産が続いていることがうかがえる。しかしながら、今回の調査でAQ製品の生産に取り組む会員工場は11工場で調査対象工場の3割に満たない状況である。今後、より一層の性能・品質の高い住宅供給のためには、まずは、AQ製品生産に取り組む会員工場の増加が喫緊の課題といえる。

プレカット業況調査(平成28年11月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率: 46%)

設 問	回答率 (%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	48	38	14	+ 34	+ 4
1-2 3ヶ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	4	41	55	- 51	+ 3
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答: 6,020円 (対前回調査- 100円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	96	4	- 4	- 4
3-2 3ヶ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	96	4	- 4	0
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	4	41	55	- 51	+ 3
4-2 3ヶ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	17	52	31	- 14	- 13
5-1 今月の収益は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	31	59	10	+ 21	+ 10
5-2 3ヶ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	4	48	48	- 44	+ 3

* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査: 平成28年8月

◇簡単なコメント

11月の各設問のDIをみると、受注額、収益は好転しているが、3ヵ月後は大幅に悪化すると予測されている。このような中で、加工単価についても弱含みで推移するとみられる。また、資材の入手環境が厳しくなっており、3ヶ月後もタイト感が続く見通しである。冬場の不需求期を迎えるが、春の訪れとともに業況が好転することを期待したい。

1. 受注額のDIは+34で前回調査時(平成28年8月期)に比べて、好転しており年末を控えた不需求期を反映している。しかし、3ヶ月後の予測のDIは-51と大幅に悪化する見通しである。冬場の不需求期を迎えるので、業況の減速化が懸念される。
2. 3ヶ月前と比較した製品加工単価のDIは-4とマイナスに振れており、平均総加工単価は6,020円と3ヶ月前と比べて100円低下しているが、ほぼ横ばいの範疇といえるであろう。3ヶ月後の製品加工単価のDIは-4で、不需求期の中での加工単価の維持が課題になるとみられる。
3. 資材入手状況のDIは-51で合板等中心にタイト感が現れている。3ヶ月後の予測のDIは-14(前回も-13)であり、この状況は続くものとみられる。
4. 3ヶ月前と比べた今月の収益のDIは+21と好転しており、前回調査時の3ヶ月後の収益予測が+3であったことからしても好況さを維持している。しかし、3ヶ月後の収益予測は-44と大幅に悪化するとみられ、今後、反動減が大きく影響しないことを期待したい。